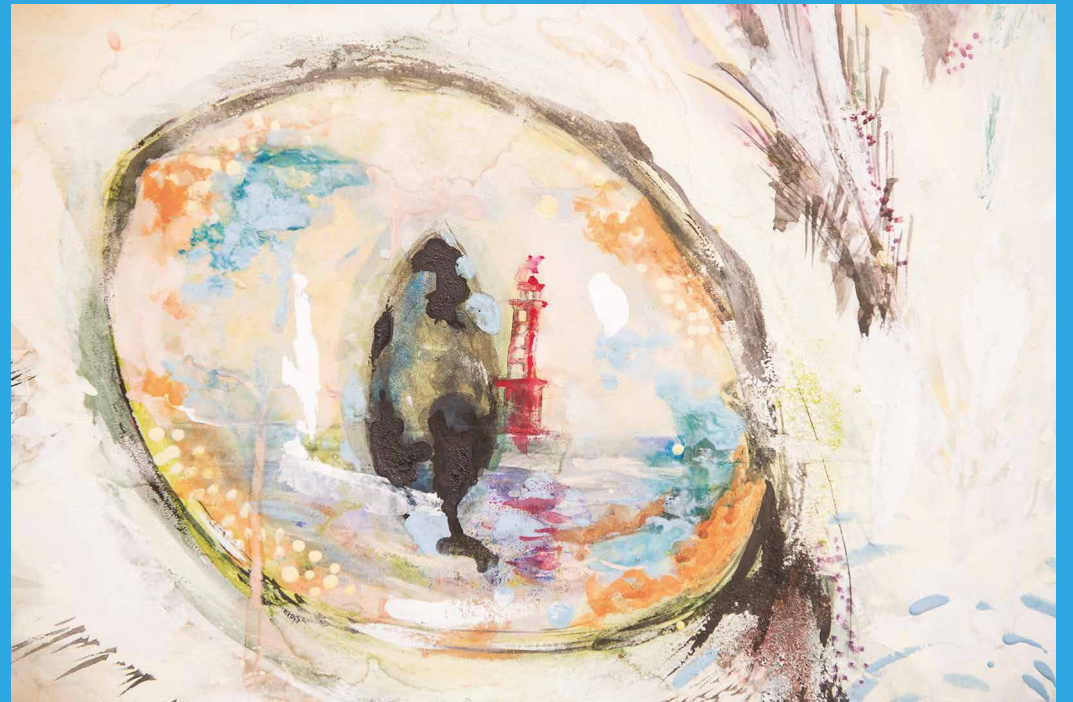
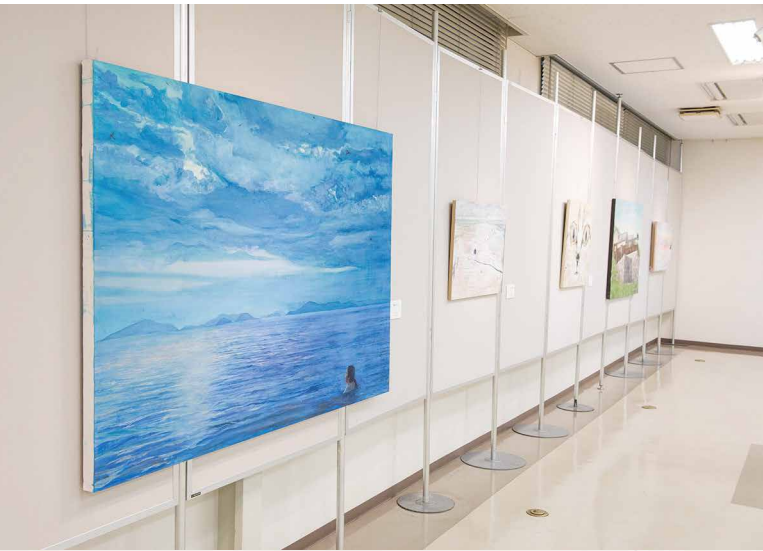




丸 亀 市

・

HOTサンダルプロジェクト実行委員会



## はじめに

HOTサンダルプロジェクトは、香川県丸亀市内の離島に東京の美術大学生を招き、制作活動に取り組んでいただくことで、アートによる島の活性化、若手芸術家の制作支援、文化芸術振興の推進を目的として2012年より実施しています。

5回目を迎えた2016年も多くの学生にご参加いただいたことで、島内が活気に満ち溢れ、島民と学生との交流が深まり、実りあるプロジェクトとなりました。

今回参加した学生たちが島の美しい自然や島民との温かい交流の中で制作した作品をご紹介します。

丸亀市・HOTサンダルプロジェクト実行委員会

## HOT サンドルプロジェクトによせて

2012年に私の故郷、香川県丸亀市がアートによる島の活性化、若きアーティストの活動支援及び文化芸術振興を目的として、HOTサンドルプロジェクトを発足してから今夏で五回目を迎えることができた。

多摩美術大学、武蔵野美術大学、女子美術大学の三校の日本画科で学ぶ学生と研究室の助手の方達を対象に参加を呼びかけ、毎年約30名が塩飽諸島の四つの島に滞在し、夏休みの期間、創作活動を行ってきた。その間、島民の方々とのワークショップや美術館見学、また、8月末には各々の島で作品を発表し、島民の皆様にも参加していただいた。丸亀市内では「未来の収穫祭」と銘打ってすべての作品を一堂に発表するなどの取り組みを続けてきた。

各島での作品発表では、毎年、学生達の豊かな感性に感動し、また、島民の皆様のあたたかな心遣いに心打たれ、この五年は夢のようであった。全力を尽くして取り組んだ魂のこもった作品に、私自身も励まされ続けてきたように思う。作品を通して熱いエールをずっと送られてきた。

瀬戸内海の島々は美しい。寄せる波、刻々と変わる空の色、潮の流れ、海を渡る風の音、夜空の美しさ。都会には見られない、一瞬一瞬移ろいゆく色彩の輝きがある。ゆったりと流れる時間、海と地と空がとけ合い、一つになる時がある。題材も大きさも自由、非日常の生活を若者達は瑞々しい力で独自の絵画へ新しい扉を開け、飛び込んでいく。島の自然は学生達の心をつかみ、人々のあたたかさに学生達は包まれる。島での経験は今後、一人一人の人生の中できっと大切な刻となることであろう。

これまでHOTサンドルプロジェクトを見守り、応援していただいた皆様、心からお礼申し上げます。そしてこれからもどうぞよろしく願いいたします。

日本画家 / 武蔵野美術大学名誉教授 三浦耐子

本島 Honjima

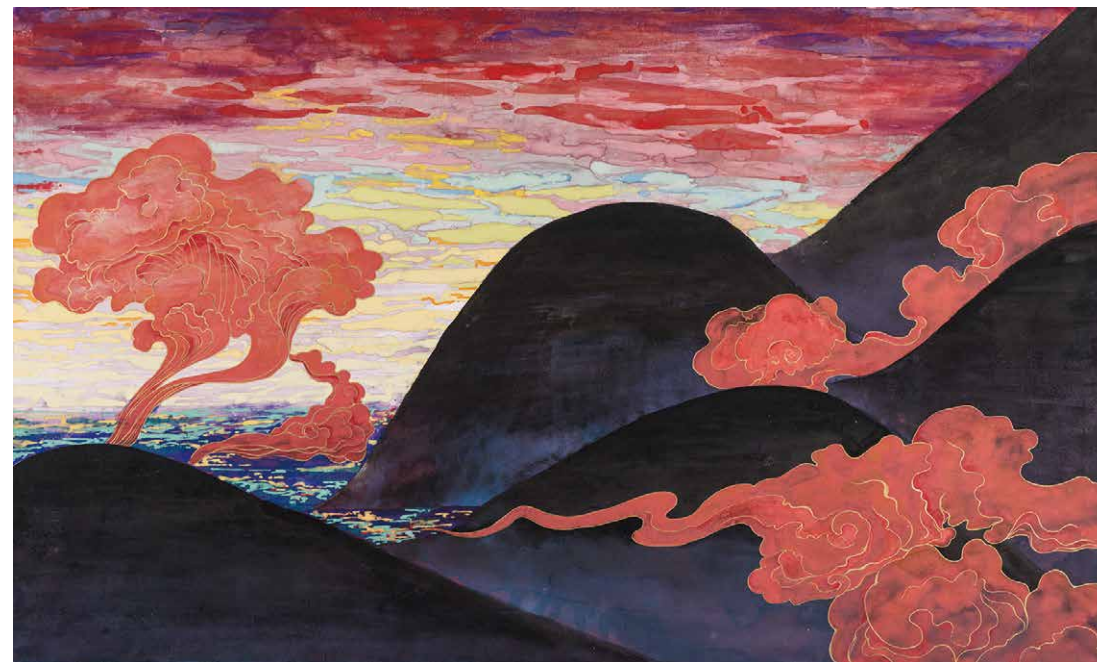




武蔵野美術大学

**加藤 由佳** Yuka Kato

「るつぼ」 600x450 雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具



多摩美術大学

**王 心怡** Wang Xinyi

「テン」 720x1200 岩絵具





女子美術大学

史凡 Shi Fan

「彼方」 300x2700 雁皮紙、水彩、金泥、銀泥、顔彩、墨 / 右ページ：拡大図





多摩美術大学

**張明檄** Zhang Mingxi

「瞥見」(左上から時計回り) 420x297,180x180,257x182,297x420,140x180 岩絵具、アクリル絵具

広島 Hiroshima



多摩美術大学

**大林 和恵** Kazue Obayashi

「さそう」 1300x1800 和紙、岩絵具





多摩美術大学

**楽 嘉怡** Yue Jiayi

「海の物語」 700x1300 和紙、岩絵具



武蔵野美術大学

**横山 喜己** Kiki Yokoyama

「常」 650x1000 寒冷紗、岩絵具、水干絵具、胡粉





武蔵野美術大学

佐川 有希 Yuki Sagawa

「悠久の時を経て」 910x1167 岩絵具、水干絵具、胡粉、膠、砂、木炭





武蔵野美術大学

**小林 彩楓** Ayaka Kobayashi

「忘却」 515x728 雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具



武蔵野美術大学

**青木 麻里奈** Marina Aoki

「望郷」 652x652 岩絵具、水干絵具





武蔵野美術大学

**内村 茉莉佳** Marika Uchimura

「放光」 450x910 テトロコ、岩絵具、水干絵具

手島 Teshima



多摩美術大学

**王晓勇** Wang Xiaoyong

「対話」 1450x450x1450 岩絵具







女子美術大学

**膳棚 久稔** Hisatoshi Zendana

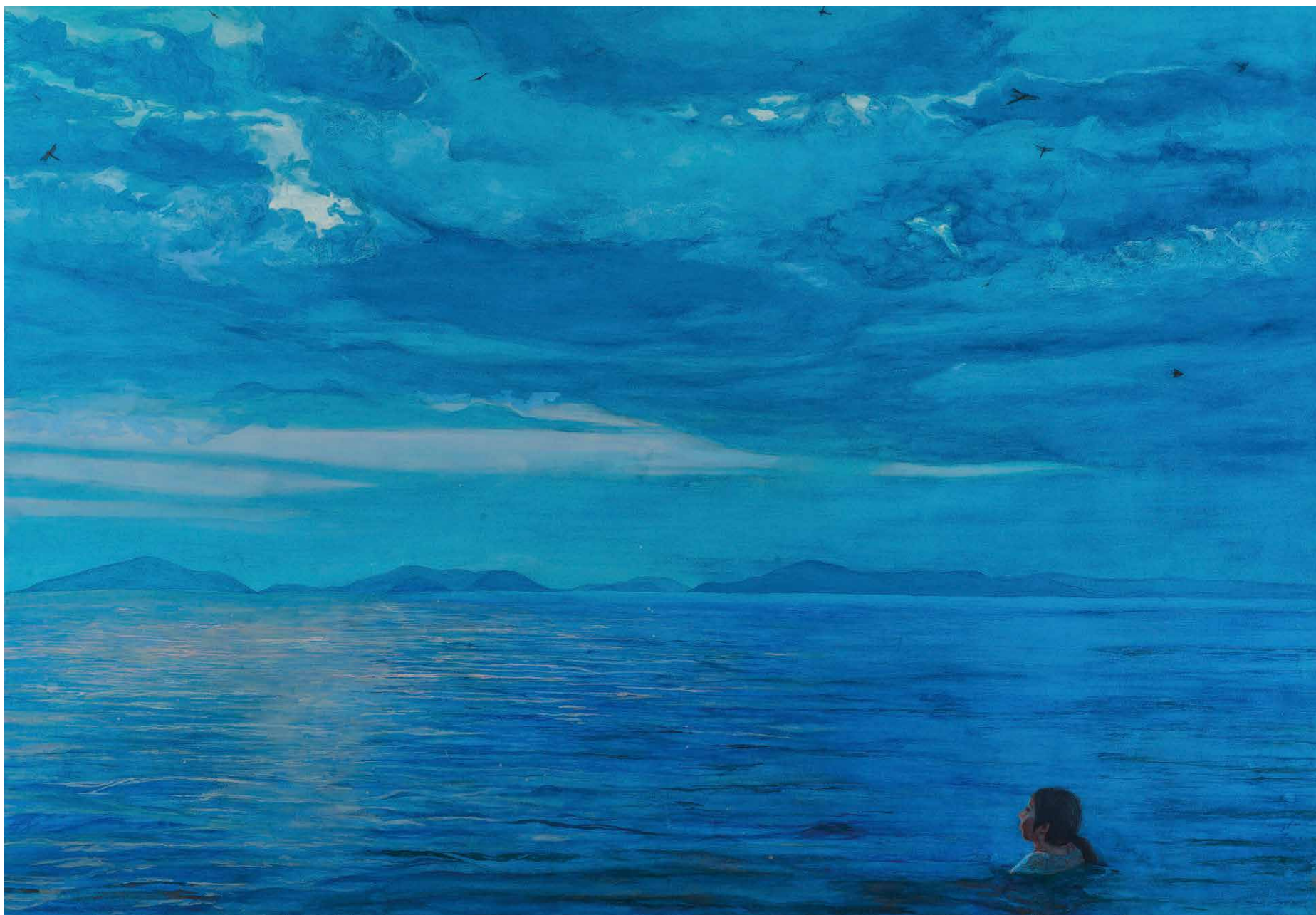
「スナメリの海」 530x727 和紙、岩絵具、水干絵具、棒絵具



武蔵野美術大学

**高橋 周平** Shuhei Takahashi

「Trace」 1760x1920 麻布、白セメント、岩絵具、水干絵具



多摩美術大学

清水 友麻 Yuma Shimizu

「夕暮れのうみ」 1120x1620 和紙、岩絵具、水干絵具、膠、方解末





多摩美術大学

**井出 夏美** Natsumi Ide

「夕風」 894x1455 雲肌麻紙、岩絵具

小手島 Oteshima



女子美術大学

**鶴岡舞** Mai Tsuruoka

「葉」 727x606 雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具



女子美術大学

**田中楓** Kaede Tanaka

「波の型」 652x910 雲肌麻紙、岩絵具



女子美術大学

**吉野 絢** Aya Yoshino

「空は青からやってくる」 1720x1405 キャンパス地、アクリル絵具、パステル





## ワークショップ作品



「瀬戸内海に浮かぶ島に、東京の美大生が1ヶ月滞在し、生活、制作する。」

その言葉だけで、すでに作品が出来上がってしまうような心躍るような企画であることは間違いない、と思った。

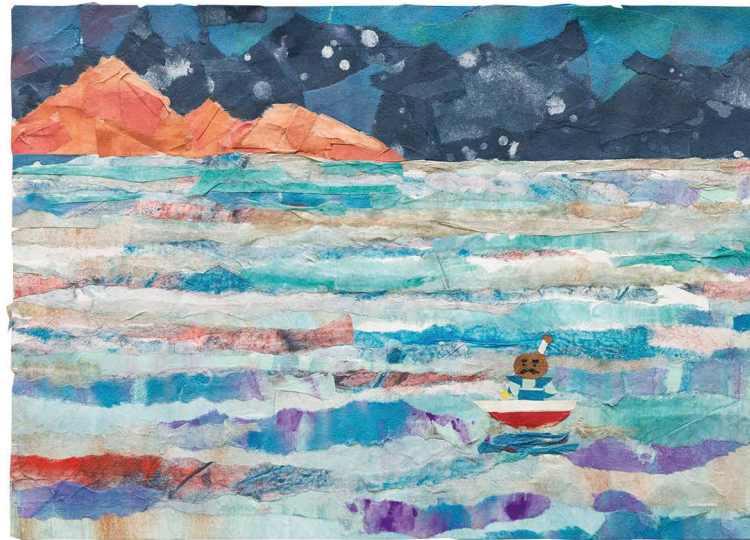
その間に行われるワークショップを依頼された時、私自身が参加したい衝動に駆られ、つい、「私も滞在制作したい!」と言ったのが事の始まりだった。

ワークショップのみならず、自分自身の制作、生活場所を用意して頂き、学生と同じように参加させて頂く機会を得た。そして、学生より長く島に滞在してしまった。

私自身ドイツに住んでいる事もあり、故郷日本の夏は十年振り、不安と期待を抱えての参加であったが、島の美しさ、人の暖かさ、緩やかに流れる時間に感激し、到着当日からすっかりここに住んでいたかのような不思議な錯覚に陥った。島のそこにあり続けるその姿に包み込まれたのだ。

今回のワークショップでは、「人、時間や記憶の繋がり」をテーマに、島民には島の風景をコラージュしてもらった。それをパトンのように学生達に引き渡し、引き続き学生達がストップモーションビデオにする、というものである。

様々な色彩の和紙を用いて、島民の方達が島の思い出話、いつもの島の景色のことを語りながら、作り上げた色彩豊かなコラージュ作品は、この島を象徴するような沢山の景色が現れた。それらを次の日に、学生達にパトンタッチする。



HOTサンダルプロジェクト

2016ワークショップ作品 Workshop 2016



本来は、静止画である絵画作品に取り組んでいる学生達にとって、違う制作工程、別の構成方法で画面を想像しながら手を入れていく作業は1日で行うには難しい作業であったはずだ。

そんな中で、生き活きと自由に制作する学生を見て、安心した。日頃、慌ただしく時間が流れる東京では、見慣れない学生の生命力溢れる、自然な姿がそこにあったからだ。

島が、本来人間が持っている自然な創造力と活力を引き出してくれたようだ。

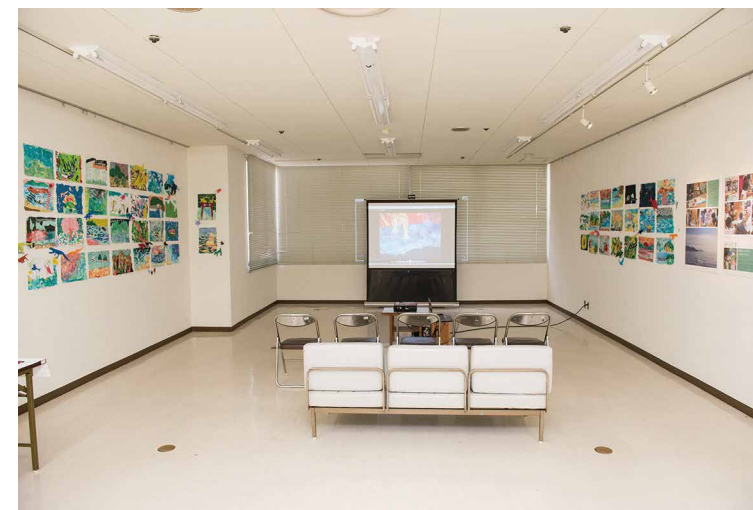
出来上がったアニメーションも、島の個性と学生の個性が織り混ざる共同作品になった。

豊かな自然に囲まれ、暖かい島民の協力を得ながら、生活、制作したことが大きな原動力となって背中を押されているのは、自分自身が同じ環境に身を置いたことにより、手に取るようにわかった。今は気付かないかもしれないが、ここでの体験はいつか大きな糧となって自分自身の中にキラキラした宝物となり、いつか制作の手助けになるであろう。

私自身、島の空気に囲まれて制作をしたこの夏は特別な夏になった。私の中でも宝物となり、残り続けるであろう。

ここにHOTサンダルプロジェクト実行委員会の正木会長、丸亀市文化観光課の皆様、ご協力頂いた島民の皆様に心より御礼を申し上げます。

武蔵野美術大学造形学部日本画学科非常勤講師 / 柏原由佳



HOTサンダルプロジェクト

2016 ワークショップ作品 Workshop 2016

